

福井しあわせ元気国体 2018

福井しあわせ元気大会 2018

第73回 国民体育大会 / 第18回 全国障害者スポーツ大会 織りなそう 力と技と美しさ

公式ダンスソング

君が最高に輝くように - 吹奏楽 version -

Piccolo, 1st & 2nd Flutes, Oboe (*option), Bassoon (*option),
1st Clarinet in Bb, 2nd Clarinet in Bb, 3rd Clarinet in Bb, Bass Clarinet in Bb,
1st Alto Saxophone in Eb, 2nd Alto Saxophone in Eb, Tenor Saxophone, Baritone Saxophone in Eb
1st Trumpet in Bb, 2nd Trumpet in Bb, 3rd Trumpet in Bb,
1st&2nd Horn in F, 3rd&4th Horn in F,
1st Trombone, 2nd Trombone, Bass Trombone
Euphonium, Tuba, Electirc Bass, Strings Bass (*option),
Drums, Timpani,
Percussion 1 [Triangle, Windchime, Tambourine]
Percussion 2 [Glockenspiel(1), Vibraphone, Chimes]
Percussion 3 [Suspended Cymbal, Shaker(*option)]
Percussion 4&5 [Cymbals, Bass drum(*option), Glockenspiel(2)]
Harp (*option)
Female vocal (*option)
Chorus [Soprano, Alto, Male] (*option)

曲目解説

‘はびねすダンス’の愛称で、福井しあわせ元気国体・大会に向けた県民運動のひとつとして多くの福井県民に親しまれている福井国体・大会ダンス。そのダンスソング「君が最高に輝くように」の吹奏楽ヴァージョンです。

冒頭に、吹奏楽版のために新たに書き足したファンファーレ、続いて[B]より、はびねすダンス’スタンダードバージョン’と同じテンポ、同じ構成のダンスソングが続きます。演奏のシチュエーションに応じて、ファンファーレを省略して[B]の1小節前（16小節目）から楽曲の演奏を開始することが可能です。

また、2015年11月に発表した「合唱ヴァージョン」と女声リードヴォーカルパートをオプションで演奏可能にしてあります。合唱ヴァージョンと吹奏楽版はキーが違いますが、アレンジは全く同じ構成ですので合唱との共演も可能ですし、ダンスソング原曲とテンポ・構成とも同じにしておりますので、‘はびねすダンス’をこのアレンジで踊ることも可能です。

様々な場面でこのアレンジを活用いただき、パフォーマー（吹奏楽団、合唱団、歌手、ダンサー）と観客のみなさまが一体となるパフォーマンスで、福井のしあわせと元気を発信し、福井しあわせ元気国体・大会に向けた、機運醸成の一助となれば、幸いです。

演奏にあたって

原曲が、ダンスソング（ポピュラーソング）なので、リズムやメロディーのシンコペーションが非常に重要な曲です。

スコアの最上段に、メロディと歌詞、コードネームを記しているのので、参考に確認をしてください。例えば、同じAメロ、Bメロ、サビでも、歌詞の譜割りに連動させているので、1番と2番とで主旋律のメロディー運びが少し違う場所があります。

全体を通して、アーティキュレーションをはっきりつけて、特にポップスの歌特有の同音の連続などは、ベタッとならないよう気を付けてください。ドラムのキック（バスドラム）とベース・低音楽器のバスのフレーズとのリズムは基本的に連動しています。シンコペーションが多く、特に、4拍目の8分音符裏で突っ込む手合いが多くなっています。リズム隊全体で、しっかり縦のラインを合わせて、曲のグルーブ感を出すのが全体の演奏の肝となってくるように思います。

アレンジは歌詞のイメージを強く意識していますので、最上段に記載した歌詞は、演奏のヒントにもなると思います。ダンサーや観客のみなさまが、ワクワクするような、みんな踊りたくなってしまうようなオリジナルな演出も面白いと思います。

用語解説など

<パーカッション>

let ring = シンバルの余韻が鳴り響かせてほしいときに記載

sec. = シンバルの音の余韻を、すぐに止めてほしいとき記載

Shaken = タンバリンの音を振ってトレモロ

※パーカッションはプレイヤーごとに記載しています

※パーカッション5のバスドラムは、大太鼓(Gran Cassa)をイメージしています。

迫力ある低音を期待しています。パーカッション人数に余裕があれば入れて頂きたいです



<ホルン>

Bell up = ダイレクトな強めの音が欲しいとき記載

Brassy = 音を割るほどの輝かしい音色が欲しいとき記載

Gliss = グリッサンド。どのような演奏法でも構いません、跳躍する音の間に高揚感を出したいと考えています。

リハーサルマークごとの解説

Fanfale ～A	2拍3連で刻む楽器と、16分音符のアルペジオでうねりを出すパートとに大きく分かります。50年ぶりに福井県にめぐって来る大会を迎える高揚感を出して、輝かしいファンファーレとしてください 7小節目4拍裏～8小節目頭の、2nd Hornと1st Tromboneの音程＝実音で[Aナチュラル]＝非和声音 → 続いて、9小節目で実音[Bb]で和声音に解決する箇所はsfzで記載しました、長い音価ですが、非和声音をしっかり強調して続く和声音で落ち着く流れをくみとって演奏に反映させてください。
B～C・D	4小節前奏～Aメロ。ダンスではこの前奏4小節で2、4拍目に手拍子が入ります。 木管の下降アルペジオは福井の山々にこだまする音のようなステレオ効果を期待しています。 Vibraphoneによるリフ(繰り返す短いフレーズ)は、右手で演奏するフレーズを際立たせて左手のEbの音は小さめで演奏してください。 Aメロの主旋律は、しっかりアーテュレーションを付けて、軽やかに演奏してください
E～F	Bメロ、サビ。 Bメロからサビに入るときに、ワンプレイクで転調します。Bがもやもやとした場面で、サビでパッとトンネルを抜けたように明るくなるイメージです。サビは重たくならないように、スタッカート・アクセント、テヌート、軽やかさを維持してください
G～H・I	インターヴァル、Aメロ。 [G]インターヴァルから[H]でストンとまたAbに戻ります。Aメロアレンジは1コーラス目とは違うアレンジになっています。[I]は基本のメロディーをトロンボーン・ユーホ・フルート・ピッコロが取り、クラリネットがカノンしていますが、このカノンは合唱版アレンジを引用しています。カノンの追いかける方(＝クラリネット)は音量が大きくならないよう注意してください。
J～L	Bメロ、サビ、インターバル2。1コーラス目とはほぼ同じですが、歌詞の譜割にあわせて、1コーラス目とは少しリズムが違うところがあります
M	Cメロ。115～116小節目の tutti、全員が8分裏で、アクセントを付けて刻みます。歌詞は「奇跡起こそう」となっています、このアクセントは、決してスタッカートにならないよう、けれど流れないように、重みをつけて、しっかり8分休符を入れて、迫力ある tutti としてください
N	ダンサーは手拍子したり周囲とハイタッチする場面、原曲ダンスソングは、コーラス・ダンサーが「感じたい熱い鼓動、歌いたい熱い鼓動」と、短いフレーズを繰り返しながらどんどん盛り上がっていきます。 そういうわけで、最初の4小節はサクソ・ユーホによる主旋律よりも、オブリガードの輝かしいホルンの音色が前に出るような音量配分にしてホルンが立つような演奏をしてください。後半4小節で第 tutti、前半4小節と後半4小節でコントラストを付けるとメリハリが出ます。
O	大サビの出だし。ドラムの長い FILL、ベースがソロのように前に出るアレンジになっています。主旋律を演奏する楽器はドラムとベースを盛り立ててください。演奏もこのあたりまで来ると、サビのフレーズは嫌でも覚えてしまう頃です、主旋律演奏担当楽器は、頑張りすぎなくても大丈夫です。
P	4拍目8分裏のシンコペーションで入るところは、全員でしっかり合わせてください。 いよいよクライマックスで、サビのフレーズを、カノンして盛り上げていきます。普通カノンというとメインフレーズを追いかけて行くパターンが多いですが、139小節目からホルン・ユーホ・テナーサクソが主旋律より先に出てカノンをするのが特徴となっています。(※合唱パート Male も参照ください)
Q	[P]のサビで頑張った反動で、つい勢いを落ち着かせる演奏にしてしまいそうですし、ドラムも大きいリズムを取っていますが、テンションは落とさずにラストに向かってください。 最後から数えて2小節目の poco rit. は、演奏シチュエーションによっては、インテンポのまま終わっても良いと思います

作詞・作曲 / 吹奏楽版編曲

石田 公代 2016. 5. 28